



○ 草の根パートナー型

パートナー型フォローアップ案件

I. 提案事業の概要	
1. 対象国名	パレスチナ
2. 事業名	パレスチナ暫定自治区ヨルダン川西岸地区トバス県における環境保全型節水農法に基づくオリーブ製品の品質向上と、「トバス聖の木農業組合」の能力強化を通じたオリーブ農家の収入向上
3. 事業の背景と必要性	事業対象地のヨルダン川西岸地区トバス県では、農業従事者が労働者全体の6割以上を占める。オリーブはトバスの主要作物の一つだが、同地域の土壌や水不足に対応する農法が適用されていないことに加え、自然条件による収穫量不安定、政治的要因による輸出困難や生産コスト高により、農家の収入は不安定である。先行事業では、このような状況を改善するため、オリーブ製品の高付加価値化に取り組み、エキストラバージン・オリーブオイル（EVオリーブオイル）を製造し、域内外で販売により裨益者の収入を向上させることができた。本事業においても、環境保全型節水農法の徹底により、オリーブの高品質化を図る。また、先行事業期間中に裨益農家により結成された「トバス聖の木農業組合」（組合）の経営能力強化と技術指導を行うことにより、EVオリーブオイルの自立生産を助けるとともに、マーケットの拡大を図り、更なる農家の収入向上を目指す。
4. プロジェクト目標	環境保全型節水農業等によりオリーブ製品の品質が向上し、ヨルダン川西岸地区トバス県「トバス聖の木農業組合」の能力強化と販売体制が整備され、組合員及びオリーブ農家の収入が向上する
5. 対象地域	ヨルダン川西岸地区トバス県
6. 受益者層 (ターゲットグループ)	トバス県の小規模オリーブ農家930世帯、農業人口4,650人
7. 期待されるアウトプット及び活動	<p><アウトプット></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 環境保全型節水農業等による高品質オリーブオイル生産と組合員及びオリーブ農家による自立的生産体制の確立。 2. パレスチナ域内外のマーケットを拡大。 <p><活動></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「トバス聖の木組合」の自立に向けた能力強化 2. 環境保全型農業技術の向上 3. オリーブ等の農産品の高付加価値化 4. オリーブ製品等のマーケットの拡大
8. 実施期間	2010年11月～2012年3月（1年5ヶ月）
9. 事業費概算額	29,556千円
10. 事業の実施体制	現地：トバス県にESDCと共同で現地事務所を設置。プロジェクトマネージャー（長期専門家）を配置。 国内：公益社団法人日本国際民間協力会（NICCO）にて実施体制を整備し、事業を推進。
II. 応募団体の概要	
1. 団体名	公益社団法人日本国際民間協力会（NICCO）
2. 活動内容	環境保全活動、無農薬・有機節水農法の普及、コミュニティ開発、資機材銀行の運営、教育、保健医療、技術・資材供与、職業訓練、緊急援助等